

【PBLツアー：陸前高田編】

特集第一弾は、陸前高田でのPBLツアーです。「震災と復興」をテーマに、東日本大震災にあった方に実際に体験談を聞いたり、被災当時のまま保存されている伝承館を訪れて、当時の様子を知ることができました。

1日目は、「さくらライン311」様の活動に参加しました。「さくらライン311」とは、東日本大震災で津波が到達した場所に桜の木を植えることで、同じような地震が来た時に逃げればよい場所を示す活動をしている団体です。生徒たちは、その植樹活動に参加し、陸前高田の被災状況などを実際に目にする事で、実際にどのような災害が起きたかを体感しました。



2日目は、気仙沼津波伝承館で、被災当時の様子を学びました。語り部さんからは、当時の方がどのように津波から逃げたのか、リアルな心情などを教えていただきました。その後に行われたワークショップでは、感想を伝えるだけでなく、自分だったらどうするか、今後どのようにしていくかなどを意見交換しました。ワタミオーガニックランドでは、被災地で活躍する人や、そこで働く人々の思い、創設の理念などを学びました。オーガニックランドではSDGsにこだわっており、植樹体験や栽培の様子を見学するだけでなく、生命の循環を体験的に学ぶこともできました。



3日目は、陸前高田で被災時に市長をされていた戸羽様にご講演いただきました。戸羽様とは、本校理事長が陸前高田市の復興参与となって以来の付き合いで、行政の立場としての被災対応について学ぶ貴重な機会となりました。午後は長洞元気村で、被災された高齢者が復興後も生き活きと生活をしている現場を訪れました。この日は行政側の話と、被災された住民側の意見の対立があったことなど深い学びができました。



4日目は陸前高田市内を巡る班別研修日でした。防災センターを訪れて耐震構造を学んだ班や、地域のクリニックを訪れて災害時の医療について学んだ班など、各々の班が自ら設定したテーマを学ぶことができました。

最終日には、今回のツアーでお世話になった方々をお招きして、各グループの研究内容を発表しました。PBLツアーで学んだことを、みな練習を重ね、堂々と発表することができました。

生徒たちはPBLツアーに参加することで、現地でしか学べない、本当の学びを体験することができました。今回、お世話になった方々に感謝するとともに、生徒たちには今回、体験したことを活かして深い学びにつなげていてもらいたいと思います。